

「自己点検・評価書」・「基礎資料」正誤表

大学名：城西大学薬学部

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
1	8	22	平成 25 年に「 <u>新カリキュラム検討小委員会</u> 」を設置し、	平成 25 年に「 <u>コアカリ検討小委員会</u> 」を設置し、
2	36	33	<u>210mm</u>	<u>210cm</u>
3	41	27	資料 <u>5-1 p133, 134</u>	資料 <u>5-2 p122, 123</u>
4	70	33	(特定感染症に対する新入生の抗体検査を含む)	削除
5	70	35	<u>96.6%</u>	<u>99.6%</u>
6	92	15	本学薬学部の教育理念には、 <u>地域社会で生活人々の健康</u>	本学薬学部の教育研究上の目的には、 <u>地域社会で生活する人々の健康</u>
7	92	18	平成 29 年度実績で <u>39 件</u> であり、	平成 29 年度、 <u>30 年度</u> 共に薬学科教員として <u>1 件</u> であり、
8	98	30	(資料 <u>233、235、236</u>)	(資料 <u>233、235、236、237</u>)

※行の欄は、見出し等も含め、文字のある行をカウントし記して下さい。

※正誤の該当箇所が分かるよう、アンダーラインを引いてください。

■基礎資料

	資料番号	頁	箇所	誤	正
1	1-1	1	薬学実習 A	「医療安全教育」の色付け	削除
2	1-4	5	コミュニティーファーマシーインターシッ	「ヒューマンズム教育・医療倫理教育」、「コミュニケーション能力および自己表現能力を身に付けるための教育」、「医療安全教育」の色付け	削除
3	1-4	5	コミュニケーション体験演習	色付なし	ヒューマンズム教育・医療倫理教育」、「コミュニケーション能力および

					自己表現能力を身に付けるための教育」、「生涯学習の意欲醸成のための教育」の色付け
4	1-5	6	コミュニティーファーマシーインターンシップ°	「ヒューマンズム教育・医療倫理教育」、「コミュニケーション能力および自己表現能力を身に付けるための教育」、「医療安全教育」の色付け	削除
5	1-6	7	コミュニティーファーマシーインターンシップ°	同上	削除
6	1-7 (新カリキュラム)	8	合計科目数、合計単位数		「修正版（令和元年8月9日提出）」
7	1-7 (旧カリキュラム)	9	同上		「修正版（令和元年8月9日提出）」
8	2-1	10	学年別在籍状況		「修正版（令和元年8月9日提出）」
9	5	104 105	H27年度以降の語学教育		「修正版（令和元年8月9日提出）」
10	6-1	117	「導入講義・演習」	2月21日4限 2月22日2限	削除
11	7	129	入学試験区分		「修正版（令和元年8月9日提出）」
12	12-1	148	PC演習室座席数	<u>210, 208</u>	<u>70, 108</u>
13	12-1		PC演習室備考	CBTにも使用（PC設置台数： <u>18-103</u> <u>70台、21-201</u> 108台）	<u>CBTにも使用</u>
14	12-1	148	自習室等ラウンジ	<u>22号館</u>	<u>21号館</u>
15	15			記載事項追加(10名)	「修正版（令和元年9月30日提出）」

差し替え資料 基礎資料 1-7 (新カリ)
基礎資料 1-7 (旧カリ)
基礎資料 2-1
基礎資料 5
基礎資料 7
基礎資料 15 10 名分

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	10	12
教養教育科目	18	34
語学教育科目	23	44
医療安全教育科目	7	10
生涯学習の意欲醸成科目	6	6
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	9	10

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	41	68	109
2 年 次	36	13	49
3 年 次	40	12	52
4 年 次	22	23	45
5 年 次	22	0	22
6 年 次	11	0	11
合計	172	116	288

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	7	9
教養教育科目	16	30
語学教育科目	23	44
医療安全教育科目	7	10
生涯学習の意欲醸成科目	5	5
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	8	9

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単位数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	37	85	122
2 年 次	39	13	52
3 年 次	41	13	54
4 年 次	20	28	48
5 年 次	23	0	23
6 年 次	9	3	12
合計	169	142	311

令和元年8月7日修正

(基礎資料2-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		250	250	250	250	250	250
入学時の学生数 ²⁾	A	254	277	311	290	327	375
在籍学生数 ³⁾	B	316	267	289	275	218	295
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者 C	62	62	80	109	48	86
	休学による者 D	0	1	0	0	1	2
編入学などによる在籍者数	E	0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 ⁵⁾	F	254	204	209	166	169	207
ストレート在籍率 ⁶⁾	F/A	100%	73.65%	67.20%	57.24%	51.68%	55.20%
過年度在籍率 ⁷⁾	(C+D)/B	19.62%	23.60%	27.68%	39.64%	22.48%	29.83%

- 1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - {(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)} を記載してください。
 ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}
- 6) (ストレート在籍者数)/(入学時の学生数)の値を小数点以下第2位まで記載してください。
- 7) (過年度在籍者数)/(在籍学生数)の値を小数点以下第2位まで記載してください。

《H27年度以降のカリキュラム》□

科目名	科目の識別	開講年次	要素			
			読み	書き	聞く	話す
△ コミュニケーション基礎英語A	基本・必	1	○	○	○	○
△ コミュニケーション基礎英語B	基本・必	1	○	○	○	○
△ コミュニケーション基礎英語C	基本・必	1	○	○	○	○
△ コミュニケーション基礎英語D	基本・必	1	○	○	○	○
○ TOEICイングリッシュ I A	基本・必	1	○	○	○	○
○ TOEICイングリッシュ I B	基本・必	1	○	○	○	○
○ TOEICイングリッシュ I C	基本・必	1	○	○	○	○
○ TOEICイングリッシュ I D	基本・必	1	○	○	○	○
薬学英語入門	専門・必	2	○		○	○
実用薬学英語	専門・必	3	○		○	○
薬学韓国語	専門・選	1～6	○	○	○	○
薬学中国語	専門・選	1～6	○	○	○	○
海外薬学英語研修 I	専門・選	1～6	○	○	○	○
海外薬学英語研修 II	専門・選	1～6	○	○	○	○
海外薬学英語研修 III	専門・選	1～6	○	○	○	○
English Communication I A	関連・選	1			○	○
English Communication I B	関連・選	1			○	○
ドイツ語 I A	関連・選	1	○	○	○	○
ドイツ語 I B	関連・選	1	○	○	○	○
フランス語 I A	関連・選	1	○	○	○	○
フランス語 I B	関連・選	1	○	○	○	○
フランス語 II A	関連・選	2	○	○	○	○
中国語 I A	関連・選	1	○	○	○	○
中国語 I B	関連・選	1	○	○	○	○
スペイン語 I A	関連・選	1	○	○	○	○
スペイン語 I B	関連・選	1	○	○	○	○
韓国語 I A	関連・選	1	○	○	○	○
韓国語 I B	関連・選	1	○	○	○	○
ハンガリー語 I A	関連・選	1	○	○	○	○
ハンガリー語 I B	関連・選	1	○	○	○	○
TOEICイングリッシュ II A	関連・選	1	○		○	
TOEICイングリッシュ II B	関連・選	1	○		○	
TOEICイングリッシュ III A	関連・選	1	○		○	
TOEICイングリッシュ III B	関連・選	1	○		○	
オーラル・イングリッシュ I B	関連・選	1			○	○

TOEFLトレーニング I A	関連・選	1	○	○	○	○
TOEFLトレーニング I B	関連・選	1	○	○	○	○
パブリックコミュニケーションA	関連・選	1			○	○
ポーランド語 I A	関連・選	1	○	○	○	○
Oral English I A	関連・選	1			○	○
Oral English I B	関連・選	1			○	○
資格英語 I A	関連・選	1	○		○	
資格英語 I B	関連・選	1	○		○	
資格英語 II A	関連・選	1	○		○	
資格英語 II B	関連・選	1	○		○	
資格英語 III A	関連・選	1	○		○	
資格英語 III B	関連・選	1	○		○	

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

注1) ○：平成28, 29年度の基本科目、△：平成30年度の基本科目

注2) 関連科目はいずれかの年度に履修者があった科目のみを記載

	学科名	入試の種類	平成26年度入試(25年度実施)							募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
			平成26年度入試(25年度実施)	平成27年度入試(26年度実施)	平成28年度入試(27年度実施)	平成29年度入試(28年度実施)	平成30年度入試(29年度実施)	平成31年度入試(30年度実施)		
薬学部	薬学	一般入試	受験者数	855	1,108	787	754	562	530	128%
			合格者数	284	253	320	274	236	383	
			入学者数(A)	165	133	154	122	100	141	
			募集定員数(B)	100	100	100	100	120	125	
			A/B*100(%)	165%	133%	154%	122%	83%	113%	
	薬学	大学入試センター入試	受験者数	896	694	569	665	694	615	139%
			合格者数	223	172	260	327	480	284	
			入学者数(A)	38	23	55	65	108	33	
			募集定員数(B)	32	32	32	32	52	52	
			A/B*100(%)	119%	72%	172%	203%	208%	63%	
	薬学	A〇入試	受験者数	37	28	24	10	5	7	250%
			合格者数	28	17	22	8	5	6	
			入学者数(A)	27	16	17	7	3	5	
			募集定員数(B)	5	5	5	5	5	5	
			A/B*100(%)	540%	320%	340%	140%	60%	100%	
	薬学	卒業生子女入試(A〇入試内で実施)	受験者数	2	4	0	5	3	1	83%
			合格者数	2	4	-	5	3	1	
			入学者数(A)	2	4	-	5	3	1	
			募集定員数(B)	3	3	3	3	3	3	
			A/B*100(%)	67%	133%	-	167%	100%	33%	
薬学	附属校推薦	受験者数	2	5	2	4	1	3	15%	
		合格者数	2	5	2	4	1	3		
		入学者数(A)	2	5	2	4	1	3		
		募集定員数(B)	20	20	20	20	20	15		
		A/B*100(%)	10%	25%	10%	20%	5%	20%		
薬学	指定校推薦(スポーツ推薦含む)	受験者数	93	109	83	75	38	42	93%	
		合格者数	93	109	83	74	38	42		
		入学者数(A)	93	109	83	73	38	42		
		募集定員数(B)	90	90	90	90	50	50		
		A/B*100(%)	103%	121%	92%	81%	76%	84%		
薬学部	日本留学試験利用入試	受験者数	0	0	0	0	0	2		
		合格者数	-	-	-	-	-	2		
		入学者数(A)	-	-	-	-	-	2		
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
		A/B*100(%)	-	-	-	-	-	-		
薬学部	社会人入試	受験者数	0	0	0	0	0	0		
		合格者数	-	-	-	-	-	-		
		入学者数(A)	-	-	-	-	-	-		
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
		A/B*100(%)	-	-	-	-	-	-		
薬学部	再入学	受験者数	0	0	0	1	1	0		
		合格者数	-	-	-	1	1	-		
		入学者数(A)	-	-	-	1	1	-		
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
		A/B*100(%)	-	-	-	-	-	-		
薬学部	学科計	受験者数	1,883	1,944	1,465	1,508	1,300	1,199	113%	
		合格者数	630	556	687	687	760	720		
		入学者数(A)	325	286	311	272	251	226		
		募集定員数(B)	247	247	247	247	247	247		
		A/B*100(%)	132%	116%	126%	110%	102%	91%		

- [注] 1 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 2 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B*100(%)]を算出してください。
- 3 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 4 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 5 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 6 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 白幡 晶		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1)学長として				平成28年 9月～現在に至る	学長として薬学部を含めた全学部の教育改善に取り組んでいる。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1)役員を通して				平成19年 4月～現在に至る	薬学教育評価機構、日本私立大学連盟、日本薬科大学協会をはじめとした各種役員を通して、大学教育の将来像の策定に関わっている。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
論文							
1 Synthesis and evaluation of fatty acid amides on the N-oleoylethanolamide-like activation of peroxisome proliferator activated receptor α (査読付)		共著	平成27年 1月	Chem Pharm Bull. vol.63 No. 4	Takao K, Noguchi K, Hashimoto Y, Shirahata A, Sugita Y.		pp.278～pp.285
2 N1-Nonyl-1,4-diaminobutane ameliorates brain infraction size in photochemically induced thrombosis model mice. (査読付)		共著	平成30年 1月	Neurosci Lett. vol.672	Masuko T, Takao K, Samejima K, Shirahata A, Igarashi K, Casero RA Jr, Sugita Y		pp.118～pp.122
その他							
III 学会等および社会における主な活動							
平成10年 1月～現在に至る			日本ポリアミン研究会 幹事				
平成19年 4月～現在に至る			日本私立薬科大学協会 理事				
平成19年 6月～現在に至る			日本私立大学連盟 医歯薬学部長等会議幹事				
平成19年12月～現在に至る			薬学教育評価機構 設立準備委員				

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
 - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
 - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(表18)

所属 薬学部薬学科	職名 助教	氏名 高山 淳	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
1) 授業アンケートに対する対応		平成22年 4月～現在に至る	期末時におこなわれるアンケートを基に来期の講義に反映させている。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
1) 基礎薬学医療薬学教育委員会		平成26年 4月～現在に至る	低学年時の基礎科目の強化に対する取り組み。		
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
1 PRACTICAL 基礎化学	単著	平成27年 3月	京都廣川書店		担当部分：有機化学
論文					
1 Structure-based design, synthesis, X-ray studies, and biological evaluation of novel HIV-1 protease inhibitors containing isophthalamide-derived P2-ligands (査読付)	共著	平成27年 5月	ScienceDirect Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	Arun K. Ghosh, Luke A. Kassekert, Jean-Rene Ella-Menye, Sofiya Yashchuk, Johnson Agniswamy, Yuan-Fang Wang, Manabu Aoki, Masayuki Amano, Irene T. Weber, Hiroaki Mitsuya	
2 Systematic evaluation of methyl ester bioisosteres in the context of developing alkenyldiarylmethanes (ADAMs) as non-nucleoside reverse transcriptase inhibitors (NNRTIs) for anti-HIV-1 chemotherapy (査読付)	共著	平成28年 5月	ScienceDirect Bioorganic & Medicinal Chemistry vol.24 No.13	Ayako Hoshi, Takeshi Sakamoto, Jun Takayama, Meiyun Xuan, Mari Okazaki, Tracy L. Hartman, Robert W. Buckheit Jr., Christophe Pannecouque, Mark Cushman	pp.3006～pp.3022
3 Oxidative Dearomatic Cyclization of N-Substituted Benzanilide Derivatives: Conformational Effect of Amide Groups on the Reaction (査読付)	共著	平成28年 8月	The Lapan Institute of Heterocyclic Chemistry Heterocycles vol.92 No.10	Kousuke Hayashi, Jun Takayama, Meiyun Xuan, Misaki Suda, Hiroyuki Teramae, Takeshi Sakamoto	pp.1785～pp.1795
4 Hamiltonian algorithm and its application to the aromatic oxidative cyclization on N-methoxy-N-prenylbenzamide (査読付)	共著	平成28年12月	AIP Conference Proceedings vol.1790 No.1	Hiroyuki Teramae, Kousuke Hayashi, Jun Takayama, Takeshi Sakamoto	
5 A fission yeast cell-based system for multidrug resistant HIV-1 proteases (査読付)	共著	平成29年 1月	BioMed Central Cell & Bioscience	Zsigmond Benko, Dong Liang, Ge Li, Robert T. Elder, Anindya Sarkar, Jun Takayama, Arun K. Ghosh, Richard Y. Zhao	
6 Design of novel HIV-1 protease inhibitors incorporating isophthalamide-derived P2-P3 ligands: Synthesis, biological evaluation and X-ray structural studies of inhibitor-HIV-1 protease complex (査読付)	共著	平成29年 4月	ScienceDirect Bioorganic & Medicinal Chemistry vol.in press	Arun K. Ghosh, Margherita Brindisi, Prasanth R. Nyalapatla, Jun Takayama, Jean-Rene Ella-Menye, Sofiya Yashchuk, Johnson Agniswamy, Yuan-Fang Wang, Manabu Aoki, Masayuki Amano, Irene T. Weber, Hiroaki Mitsuya	
その他					
1 新規アルケニルジアリールメタン (ADAM) 誘導体の合成と抗HIV活性の評価、並びにPMO計算による解析		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会 昭和薬科大学	星 絢子, 馬場 弥生, 藤田 麻莉子, 玄 美燕, 坂本 武史	
2 酸化的脱芳香化反応を用いる2-アザスピロ環合成におけるアミド窒素上の置換基効果		平成26年10月	第58回日本薬学会関東支部大会 昭和薬科大学	島野 洋祐, 須田 岬, 玄 美燕, 寺前 裕之, 坂本 武史	
3 構造最適化計算を併用した2-アザスピロ環化合物の効率的合成		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	小玉 健太郎, 島野 洋祐, 須田 岬, 玄 美燕, 寺前 裕之, 坂本 武史	

4 オキサジアゾール環を有する非核酸系HIV-1逆転写酵素阻害剤アルケニルジアリアルメタン類の合成と活性評価		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	星 絢子, 鍋倉 聡志, 林 浩輔, 大島 康平, 萩原 綾菜, 玄美燕, 坂本 武史
5 新規フェルラ酸誘導体をマトリックスに用いるタンパク質及びペプチドのMALDI-TOF-MS解析		平成27年 3月	日本薬学会第135年会 神戸	加藤 洋介, 福田 護, 玄美燕, 岡崎 真理, 坂本 武史, 広澤 成美, 坂本 安
6 超原子価ヨウ素化合物を用いるスピロオキシンドール環の合成		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会 日本大学薬学部	佐藤尚也, 林浩輔, 見澤翼, 島野洋祐, 須田岬, 玄美燕, 寺前裕之, 坂本武史
7 エステル生物学的等価体としてスルホキシドを有する新規NNRTIアルケニルジアリアルメタンの開発		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会 日本大学薬学部	林浩輔, 新井悠太, 久津間貴司, 本屋敷彬鼓, 星絢子, 玄美燕, 坂本武史
8 新規フェルラ酸誘導体のMALDIマトリックスへの応用と評価		平成27年 9月	第59回日本薬学会関東支部大会 日本大学薬学部	加藤洋介, 福田護, 松田千代子, 玄美燕, 岡崎真理, 坂本武史, 広澤成美, 坂本安
9 スピロオキシンドール環合成におけるアミド窒素の置換基の影響		平成28年 6月～平成28年 7月	創薬懇話会 in 2016 蓼科	林浩輔, 佐藤尚也, 島野洋祐, 玄美燕, 高山淳, 坂本武史, 須田岬, 寺前博之
10 新規フェルラ酸誘導体の合成とMALDI Matrixへの応用及び評価		平成28年 6月～平成28年 7月	創薬懇話会 in 2016 蓼科	加藤洋介, 松田千代子, 辻村和博, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史, 広澤成美, 坂本安
11 新規フェルラ酸誘導体の合成とプロテオーム解析用MALDIマトリックスへの応用		平成28年 9月	第60回 日本薬学会 関東支部大会 東京大学大学院	加藤洋介, 松田千代子, 辻村和博, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史, 広澤成美, 坂本安
12 ベンズアニリド誘導体の酸化的脱芳香化反応におけるアミド窒素の置換基効果		平成28年 9月	第60回 日本薬学会 関東支部大会 東京大学大学院	林浩輔, 佐藤尚也, 見澤翼, 島野洋祐, 須田岬, 玄美燕, 高山淳, 寺前裕之, 坂本武史
13 酸化的脱芳香化反応を利用した2-アザスピロ[4.5]デカン類の合成		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	林浩輔, 堀田理帆, 石原友梨, 須田岬, 玄美燕, 高山淳, 寺前裕之, 坂本武史
14 CF3置換オキサジアゾールを有するADAM誘導体の合成と抗HIV-1活性の評価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	星絢子, 二本木奏美, 吉川千尋, 本山貴之, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史
15 スルホキシド置換アルケニルジアリアルメタン類の合成と抗HIV-1活性の評価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	武井貴紀, 林浩輔, 岩本悠, 久津間貴司, 新井悠太, 星絢子, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史
16 MALDI-TOFMS PMF解析用マトリックスとしてのフェルラ酸誘導体の評価		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	加藤洋介, 松田千代子, 辻村和博, 玄美燕, 高山淳, 岡崎真理, 坂本武史, 広澤成美, 坂本安
17 PC12細胞におけるフェルラ酸誘導体FAD012の酸化ストレス障害抑制メカニズムの検討		平成29年 3月	日本薬学会第137年会 仙台	玄美燕, 中村梨花, 林浩輔, 加藤洋介, 高山淳, 坂本武史, 松崎広和, 岡崎真理
18 フェルラ酸のフリーラジカル消去能に関する理論的研究		平成30年10月	日本コンピュータ化学会 2018春期年会 東京	寺前 裕之, 玄美燕, 高山 淳, 岡崎 真理, 坂本 武史
19 プロテオーム解析用MALDIマトリックスとしてのフェルラ酸誘導体のイオン化能力の評価		平成31年 3月	日本薬学会第139年会 千葉	・ 加藤 洋介, 北田 尚也, 鈴木 雄介, 水島 寛堂, 玄美燕, 高山淳, 岡崎 真理, 坂本 武史, 広澤成美, 坂本 安
20 新規フェルラ酸誘導体のフリーラジカル消去能及び細胞保護作用の評価		平成31年 3月	日本薬学会第139年会 千葉	・ 小山 貴大, 玄美燕, 中村 梨花, 山下 司, 高山 淳, 松崎 広和, 岡崎 真理, 坂本 武史, 寺前裕之
21 ベンゾイミダゾロン環を導入した新規ADAM誘導体の合成及び抗HIV-1活性の評価		平成31年 3月	日本薬学会第139年会 千葉	・ 武井 貴紀, 中村 佳菜美, 原田 弘毅, 星 絢子, 玄美燕, 高山淳, 岡崎 真理, 坂本 武史, Mark Cushman
22 酸化ストレス傷害に対するフェルラ酸誘導体のERKおよびNrf2経路を介した細胞保護メカニズムの検討		平成31年 3月	日本薬学会第139年会 千葉	・ 玄美燕, 中村 梨花, 木下 智史, 加藤 洋介, 高山 淳, 坂本 武史, 岡崎 真理
23 両側総頸動脈結紮ラットにおけるフェルラ酸誘導体FAD012の脳血流維持効果		平成31年 3月	日本薬学会第139年会 千葉	・ 松本 花織, 小林 凌晟, 浅野 昂志, 松崎 広和, 玄美燕, 日比野 康英, 高山 淳, 坂本 武史, 岡崎 真理
III 学会等および社会における主な活動				

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
 - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
 - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 准教授		氏名 吉田 彰宏		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1)教育内容・方法の工夫				平成30年 4月～現在に至る		2018年度は初めて化学Aを担当したので、試験100%で評価したが、2019年度からは試験80%、レポート等20%として、中間段階での学生の理解度をチェックして、それ以降の講義はその理解度に応じた内容で展開していく予定である。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1)クラス担任				平成30年 4月～現在に至る		1年生6名の担任	
2)その他特記事項				平成30年 4月～現在に至る		化学Aに関しては、講義内容をまとめたうえで、教科書として出版できるくらいのものを作成したいと考えている。 有機化学演習に関しては、担当した単元について、国試過去問を含む補助資料を作成したので、少しずつその量を増やして、有機化学全体のまとめ資料とすることを目指していく。	
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書							
論文							
1 Stereoselective Conjugate Addition of Carbonyl Compounds to Maleimides Using Diaminomethyleneindenedione Organocatalyst (査読付)		共著	平成28年10月	Elsevier Science Ltd. Tetrahedron: Asymmetry vol. 27 No. 17-18		Nakashima, K.; Kawada, M.; Hirashima, S.-I.; Kosugi, A.; Kato, M.; <u>Yoshida, A.</u> ; Koseki, Y.; Miura, T.	pp. 888～pp. 895
2 Asymmetric Chlorination of β -Keto Esters Using Diaminomethylenemalononitrile Organocatalyst (査読付)		共著	平成28年12月	The Pharmaceutical Society of Japan Chemical and Pharmaceutical Bulletin vol. 64 No. 12		Sakai, T.; Hirashima, S.-i.; Nakashima, K.; Maeda, C.; <u>Yoshida, A.</u> ; Koseki, Y.; Miura, T.	pp. 1781～pp. 1784
3 Squaramide-Sulfonamide Organocatalyst for Asymmetric Direct Vinylogous Aldol Reactions (査読付)		共著	平成29年 4月	American Chemical Society The Journal of Organic Chemistry vol. 82 No. 9		Sakai, T.; Hirashima, S.-i.; Yamashita, Y.; Arai, R.; Nakashima, K.; <u>Yoshida, A.</u> ; Koseki, Y.; Miura, T.	pp. 4661～pp. 4667
4 Asymmetric Conjugate Addition of Nitroalkanes to Enones Using a Sulfonamide-Thiourea Organocatalyst (査読付)		共著	平成29年 6月	American Chemical Society The Journal of Organic Chemistry vol. 82 No. 13		Kawada, M.; Nakashima, K.; Hirashima, S.-i.; <u>Yoshida, A.</u> ; Koseki, Y.; Miura, T.	pp. 6986～pp. 6991
5 Design of Novel Hydrogen-Bonding Donor Organocatalysts and their Application to Asymmetric Direct Aldol Reaction (査読付)		共著	平成29年 7月	Georg Thieme Verlag KG Synlett vol. 28 No. 11		Akutsu, H.; Nakashima, K.; Yanai, H.; Kotani, A.; Hirashima, S.-i.; Yamamoto, T.; Takahashi, R.; <u>Yoshida, A.</u> ; Koseki, Y.; Hakamata, H.; Matsumoto, T.; Miura, T.	pp. 1363～pp. 1367
6 Regioselective Synthesis of 2,3-Disubstituted 1-Alkyl Pyrrolo[2,3-b]quinoxalines through Palladium-catalyzed Heck reaction of Chalcones and Evaluation of Their Anti-bacterial Activities (査読付)		共著	平成30年 5月	Elsevier Science Ltd. Tetrahedron vol. 74 No. 19		Besharati-Seidani, T.; Keivanloo, A.; Kaboudin, B.; <u>Yoshida, A.</u> ; Yokomatsu, T.	pp. 2050～pp. 2358
7 A Synthetic Approach to Derive <i>exo</i> -Glucal Derivatives through the Reaction of A 1-C-Vinylated Glucopyranose Derivative with Phenols (査読付)		共著	平成30年 9月	The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry Heterocycles vol. 97 No. 1		Yamanoi, T.; Matsuda, S.; Nakagawa, J.; Watanabe, M.; Oda, Y.; <u>Yoshida, A.</u>	pp. 170～pp. 177

8 One-pot Synthesis of Biologically Active 1,2,3-Trisubstituted Pyrrolo[2,3-b]quinoxalines through a Palladium-catalyzed Reaction with Internal Alkyne Moieties (査読付)	共著	平成30年11月	Springer International Publishing AG Molecular Diversity vol.22 No.4	Keivanloo, A.; Besharati-Seidani, T.; Kaboudin, B.; <u>Yoshida, A.</u> ; Yokomatsu, T.	pp.879~ pp.891
9 Use and Recyclability of Scandium Tris[bis(perfluorooctylsulfonyl)amide] as a Lewis Acid Promoter for Glycosidation Reactions (査読付)	共著	平成30年12月	Bentham Science Publishers Letters in Organic Chemistry vol.15 No.12	Yamanoi, T.; Inoue, R.; Oda, Y.; <u>Yoshida, A.</u>	pp.1056~ pp.1059
10 α -Glucoside Formation from 2-Deoxy-2-(2,2,2-trichloroethoxycarbonylamido)- α -D-glucopyranosyl Acetate Using an Activating System That Used a Combination of Ytterbium(III) Triflate and a Catalytic Boron Trifluoride Diethyl Etherate Complex (査読付)	共著	平成31年	The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry Heterocycles vol.99	Yamanoi, T.; Oda, Y.; Koizumi, A.; Kawaguchi, T.; Yagihara, S.; <u>Yoshida, A.</u>	
その他					
1 Development of Laminin- α 2 Chain-derived Peptide-modified Lipid Nanoparticles for Target Delivery to Muscle Derived Cells	共著	平成30年 6月	第11回日仏ワークショップ (日本筋学会主催)	Sasaki, E.; Hamano, N.; Hayashi, Y.; Nirasawa, K.; Katagiri, F.; Sakai, T.; <u>Yoshida, A.</u> ; Hirashima, S.-i.; Miura, T.; Endo-Takahashi, Y.; Kikkawa, Y.; Nomizu, M.; Negishi, Y.	pp.No. 8
2 Evaluation of Targeting Ability to Muscle Cell of Dual Peptide-modified Liposomes Using Microfluidics Techniques	共著	平成30年 7月	18th Symposium for Gene Design and Delivery	Sasaki, E.; Hamano, N.; Hayashi, Y.; Nirasawa, K.; Katagiri, F.; Sakai, T.; <u>Yoshida, A.</u> ; Hirashima, S.-i.; Miura, T.; Endo-Takahashi, Y.; Kikkawa, Y.; Nomizu, M.; Negishi, Y.	
III 学会等および社会における主な活動					

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
 - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
 - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 准教授		氏名 渡辺 知恵		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) 薬剤学実習書 (大阪大谷大学)				平成26年 4月～平成30年 3月		医薬品の調整から使用に至るまでの流れと、製剤品質評価及びその有効性に関わる因子に対する統合的理解を目標に、固形製剤、半固形製剤、液状製剤及び製剤試験法に関する重要項目に関する基本的知識と技能に関する実習をデザインし、実習書を作製した。主要な項目として、製剤添加物、粉体物性、乳化安定性、レオロジー、製剤の調製、製剤試験法など。活動期間中、毎年、改訂を行い、浸透圧測定、粒度分布測定、薬物代謝動態に関する項目などの追加を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数
著書							
I DDS先端技術の製剤への応用開発		共著	平成29年 8月	(株) 技術情報協会	村上正裕、渡辺知恵		担当部分： トコフェロール修飾による直腸からの肝標的デリバリー技術
論文							
1 Fabrication of porous ethyl cellulose microspheres based on the acetone-glycerin-water ternary system: Controlling porosity via the solvent-removal mode. (査読付)		共著	平成27年	Drug Discoveries & Therapeutics vol.9 No.5	M. Murakami, A. Matsumoto, C. Watanabe, Y. Kurumado, M. Takama		pp.303～ pp.309
2 Enteral siRNA delivery technique for therapeutic gene silencing in the liver via the lymphatic route. (査読付)		共著	平成27年	Scientific Reports vol.5	M. Murakami, K. Nishina, C. Watanabe, K. Yoshida-Tanaka, W. Piao, H. Kuwahara, Y. Horikiri, K. Miyata, N. Nishiyama, K. Kataoka, M. Yoshida, H. Mizusawa, T. Yokota		pp.17035～ pp.17047
3 Fabrication of Janus particles composed of poly (lactic-co-glycolic) acid and hard fat using a solvent evaporation method. (査読付)		共著	平成28年	Drug Discoveries & Therapeutics vol.10 No.8	A. Matsumoto, S. Murao, C. Watanabe, M. Murakami		pp.307～ pp.313
4 Regulation of B-lineage cells by caspase 6. (査読付)		共著	平成30年 6月	Wiley Immunology and Cell Biology	C. Watanabe, G. L. Shu, N. V. Giltay, E. A. Clark		pp.1～pp.11
その他							
1 Can colorectal delivery technology provide a platform for enteral oligonucleotide-based therapeutics? (査読付)		共著	平成28年11月	Drug Discoveries & Therapeutics vol.10 No.5	M. Murakami, C. Watanabe		pp.273～ pp.275
III 学会等および社会における主な活動							

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
 ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。

- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 教授		氏名 北原 嘉泰		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) 演習を取り入れた講義の実施				平成18年 4月～現在に至る		一方的に講義をするだけでなく、講義した内容に関連する問題を提示し、授業時間中に問題を解答させた後に解説を行い、理解を深められるようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) 第100回薬剤師国家試験問題 問題篇、解答・解説篇				平成27年 3月～平成27年 6月		第100回薬剤師国家試験問題のうち「化学」2問の解説を作成し、さらに解答・解説篇全体 (345問) の編集を行った。本書は薬学科1～6年生全員に配布している。	
2) 第101回薬剤師国家試験問題 問題篇、解答・解説篇				平成28年 3月～平成28年 6月		第101回薬剤師国家試験問題のうち「化学」2問の解説を作成し、さらに解答・解説篇全体 (345問) の編集を行った。本書は薬学科1～6年生全員に配布している。	
3) 第102回薬剤師国家試験問題 問題篇、解答・解説篇				平成29年 3月～平成29年 6月		第102回薬剤師国家試験問題のうち「化学」2問の解説を作成し、さらに解答・解説篇全体 (345問) の編集を行った。本書は薬学科1～6年生全員に配布している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1) 総合科目の試験問題の編集と校正、及び作成指導				平成23年 4月～平成30年 3月		薬学科 (6年制) 教育課程の締めくくりとして、これまでに学んだ薬学の学習内容を総括し、優れた薬剤師として社会に貢献できるようになるための知識・技能を確認することを目的として開講している総合科目 (総合医療薬学演習) の試験が適切に行われるように、試験問題全体の編集、校正を行うとともに、適切な問題が出題されるよう、出題基準の作成と出題者へのアドバイスをを行った。	
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書							
論文							
その他							
1 新制度薬剤師国家試験における試験問題の文字数及び文章の難易度の調査			平成30年 9月	第3回日本薬学教育学会大会 昭和大学旗の台キャンパス (東京都品川区)		沼尻幸彦、小島裕、木村聡一郎、近藤誠一、荻原政彦、新津勝、北原嘉泰 他	
III 学会等および社会における主な活動							
平成20年 1月～平成30年 1月			米国化学会 (アメリカ合衆国) Journal of Organic Chemistry論文審査委員				
平成25年 2月～現在に至る			日本薬学会 代議員				
平成26年 4月～平成30年 3月			東京都立清瀬高等学校学校運営連絡協議会委員				

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
 - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
 - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 准教授		氏名 大竹 一男		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) WebClassを活用した双方向性講義の実践				平成26年 4月～現在に至る	学内WebClassを積極的に活用し、講義資料の掲載のみならず講義の質問に対する回答を通知している。適宜、課題を提出させ、解答例として添削した後受講生へ公開している。2019年度9月より、小テストも実施する予定。		
2) 人体模型を用いた演習				平成29年 4月～現在に至る	薬学実習Aにおいて、動物の解剖のみならず人体の模型を使用して器官系ごとに演習できるプログラムを作成し、実行した。また演習前後に確認テストを行い学修の習得度を評価した。同時にアンケート調査を実施し、次年度の課題として改良している。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
1 ～医療ニーズ、規制、最新技術、薬価、事業戦略、事例をふまえた～DDS製剤の開発・評価と実用化手法	共著	平成25年 4月	技術情報協会	大竹一男他			
論文							
1 Effect of poly-L-arginine on intestinal absorption of hydrophilic macromolecules in rats. (査読付)	共著	平成25年 4月	Biol Pharm Bull. vol.36	Yamaki T, Uchida M, Kuwahara Y, Shimazaki Y, Ohtake K, Kimura M, Uchida H, Kobayashi J, Ogihara M, Morimoto Y, Natsume H.	pp.496～pp.500		
2 Poly-L-arginine-Induced internalization of tight junction proteins increases the paracellular permeability of the Caco-2 cell monolayer to hydrophilic macromolecules. (査読付)	共著	平成25年 4月	Biol Pharm Bull. vol.36	Yamaki T, Ohtake K, Ichikawa K, Uchida M, Uchida H, Ohshima S, Juni K, Kobayashi J, Morimoto Y, Natsume H.	pp.432～pp.441		
3 Acute lethal crush-injured rats can be successfully rescued by a single injection of high-dose dexamethasone through a pathway involving PI3K-Akt-eNOS signaling. (査読付)	共著	平成25年 4月	J Trauma Acute Care Surg. vol.75	Murata I, Ooi K, Shoji S, Motohashi Y, Kan M, Ohtake K, Kimura S, Ueda H, Nakano G, Sonoda K, Inoue Y, Uchida H, Kanamoto I, Morimoto Y, Kobayashi J.	pp.241～pp.249		
4 Aldehyde dehydrogenase 2 partly mediates hypotensive effect of nitrite on L-NAME-induced hypertension in normoxic rat. (査読付)	共著	平成25年11月	Clin Exp Hypertens.	Sonoda K, Ohtake K, Kubo Y, Uchida H, Uchida M, Natsume H, Kobayashi M, Kobayashi J.			
5 肥満を伴うインスリン抵抗性マウスに及ぼす亜硝酸塩摂取の影響に関する研究 3	単著	平成25年12月	財団法人 日本食品化学研究振興財団 第19回研究成果報告書 第19巻		79頁～86頁		
6 都道府県別の平均要介護期間と損失生存可能年齢の地域格差と医療・福祉資源の関連について (査読付)	共著	平成26年 3月	厚生 の指標 第61巻 第3号	内田博之、中村拓也、金子綾野、大竹一男、内田昌希、小田切陽一、夏目秀視、小林順	15頁～24頁		
7 A Mechanism Enhancing Macromolecule Transport Through Paracellular Spaces Induced by Poly-L-Arginine: Poly-L-Arginine Induces the Internalization of Tight Junction Proteins via Clathrin-Mediated Endocytosis. (査読付)	共著	平成26年 3月	Pharm Res.	Yamaki T, Kamiya Y, Ohtake K, Uchida M, Seki T, Ueda H, Kobayashi J, Morimoto Y, Natsume H.			
その他							

1 高脂肪食摂取したOVXマウスの亜硝酸塩摂取に及ぼす糖代謝及び脂質代謝の影響		平成25年 5月	第13回 日本NO学会学術総会（沖縄）	江原伸行、大竹一男、藺田邦博、千葉大成、内田博之、小林順
2 絶食ラットの廃用性腸管粘膜萎縮に与えるグルタミンの効果		平成25年 5月	第13回 日本NO学会学術総会（沖縄）	内田博之、町田奈保実、齋藤友貴、中島由加里、角田幸徳、塚原聡美、伊東順太、大竹一男、小林順
3 Caco-2 細胞 sheet に poly-L-arginine の水溶性高分子薬物の透過促進機構に関する研究		平成25年12月	第19回 Hindgut Club JAPAN シンポジウム	八巻努、神矢佑輔、大竹一男、内田昌希、関俊暢、上田秀雄、小林順、森本雅憲、夏目秀視
4 Helicobacter pylori凝集における humanGalectin-2及びそのニトロソ化体の比較とGalectin 分子種の違いによる検討		平成26年 3月	第134年会日本薬学会（熊本）	永堀司、大竹一男、田中亨、田村真由美、武内智春、八巻努、内田昌希、小林順、荒田洋一郎
5 わが国の男性死亡割合の動向に対する年齢一時代一コホート効果と死亡割合の将来予測		平成26年 3月	第134年会日本薬学会（熊本）	細淵亜実、内田博之、大竹一男、小田切陽一、小林順
6 亜硝酸塩はOVXした高脂肪食摂取マウスの脂肪細胞肥大を抑制する		平成26年 3月	第134年会日本薬学会（熊本）	江原伸行、大竹一男、藺田邦博、千葉大成、内田博之、小林順
7 絶食ラットの廃用性腸管粘膜萎縮に及ぼす非消化物質摂取の改善効果		平成26年 3月	第134年会日本薬学会（熊本）	中島由加里、内田博之、伊東順太、大竹一男、小林順
8 GISを使用した埼玉県内の保険薬局における在宅医療への参画状況		平成26年 3月	第134年会日本薬学会（熊本）	丸野将司、内田博之、大竹一男、八巻努、内田昌希、小田切陽一、小林順、夏目秀視
Ⅲ 学会等および社会における主な活動				

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
 - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
 - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 准教授		氏名 大嶋 繁		大学院における研究指導担当資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1)実務実習での問題解決				平成17年 4月～現在に至る	実務実習で生じる種々の問題に対して、学生に不利益とならないように施設、指導薬剤師との話し合いの場を設けている。		
2)臨床経験を授業に組み込んでいる。				平成24年 4月～現在に至る	在宅業務での経験を授業で話している。		
3)埼玉県薬剤師会の理事としての活動				平成24年 4月～現在に至る	城西大学の学生が埼玉県内の薬局で有益な実習ができるように、埼玉県薬剤師会の理事となり、種々の依頼をしている。		
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1)担任学生の生活指導				平成17年 4月～現在に至る	担任学生と面談し、大学生活および勉学等の相談、指導にあたっている。		
2)チーム医療の重要性の伝達				平成24年 4月～現在に至る	在宅医療におけるチーム医療の重要性を授業で伝えている。		
3)IPWでの指導				平成25年 4月～現在に至る	4大学連携事業において、城西大学、埼玉県立大学、埼玉医大、日本工業大学の学生を患者宅に同行させ、ケアの重要性を討議させている。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
論文							
1 演習型講習会により抽出された薬剤師の在宅業務の課題 (査読付)	共著	平成28年 9月					
2 Journal of Drug Research and DevelopmentVolume (査読付)	共著	平成29年 3月					
3 Deprescribing Using the Guidelines for Medical Treatment and Its Safety in the Elderly and Changes in Patient QOL and Activities of Daily Living (査読付)	共著	平成29年 5月	日本薬学会 薬学雑誌 第137巻 第5号	大嶋 繁, 原 彩伽, 阿部 卓巳, 秋元 勇人, 大原 厚祐, 根岸 彰生, 沖田 光良, 大島 新司, 井上直子, 沼尻 幸彦, 小川 越史, 齋木 実, 小林 大介	623頁～633頁		
4 Study on the increased probability of detecting adverse drug reactions based on Bayes' theorem: evaluation of the usefulness of information on the onset timing of adverse drug reactions. (査読付)	共著	平成29年 9月					
5 Comparison of the benefit feeling rate based on the Sho of OTC kakkonto, cold remedy and cold remedy with kakkonto combination product (査読付)	共著	平成29年10月					
6 Identification and characteristics of time-related shift in suicide-related event frequency during smoking cessation treatment with varenicline	共著	平成29年10月					
7 城西大学に在籍する学生、教員、職員を対象とした「かかりつけ薬剤師・薬局」に対する意識調査 (査読付)	共著	平成30年 3月					
8 介護支援専門員調査より得られた薬剤師が優先的に取り組む要介護者の抱える薬の問題 (査読付)	共著	平成30年 9月	老年薬学会 老年薬学会雑誌 第1巻 第2号				

9 Onset timing of statin-induced musculoskeletal adverse events and concomitant drug-associated shift in onset timing of MAEs (査読付)	共著	平成30年10月	Pharmacol Res Perspect		
10 『調剤指針』のテキストマイニングから明らかになった調剤の概念の変遷 (査読付)	共著	平成30年12月	社会薬学 社会薬学	井上 直子, 安田 和誠, 森 勇人, 秋元 勇人, 大原 厚祐, 根岸 彰生, 沖田 光良, 大島 新司, 沼尻 幸彦, 大嶋 繁, 從二 和彦, 小林大介	
その他					
III 学会等および社会における主な活動					
平成17年 4月～現在に至る	埼玉県病院薬剤師会 教育支援委員会委員				
平成21年 4月～現在に至る	埼玉県薬剤師会 理事				
平成29年 1月～現在に至る	日本老年薬学会 理事				
平成29年 1月～現在に至る	日本老年薬学会 日本老年薬学会雑誌編集委員会委員長				

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
 - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
 - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 准教授		氏名 谷川 尚		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1)H30年度国家試験対策支援について				平成30年 5月			
2)今、求められている大学とは				平成30年 6月			
3)2021年度入試制度について、大学構想ワークショップの報告について				平成30年 7月			
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
論文							
1 Sphingomyelin Synthase 2, but not Sphingomyelin Synthase 1, is Involved in HIV-1 Envelope-mediated Membrane Fusion. (査読付)	共著	平成26年 9月	The Journal of biological chemistry vol.289 No.44	Hayashi Y, Nemoto-Sasaki Y, Tanikawa T, Oka S, Tsuchiya K, Zama K, Mitsutake S, Sugiura T, Yamashita A	pp.30842~ pp.30856		
2 Glycerophosphate/Acylglycerophosphate acyltransferases. (査読付)	共著	平成26年11月	Biology vol.3 No.4	Yamashita A, Hayashi Y, Matsumoto N, Nemoto-Sasaki Y, Oka S, Tanikawa T, Sugiura T	pp.801~ pp.830		
3 Myeloid-Derived Suppressor Cells Endow Stem-like Qualities to Breast Cancer Cells through IL6/STAT3 and NO/NOTCH Cross-talk Signaling. (査読付)	共著	平成28年 6月	Cancer research vol.76 No.11	Peng D, Tanikawa T, Li W, Zhao L, Vatan L, Szeliga W, Wan S, Wei S, Wang Y, Liu Y, Staroslawska E, Szubstarski F, Rolinski J, Grywalska E, Stanis?awek A, Polkowski W, Kurylcio A, Kleer C, Chang AE, Wicha M, Sabel M, Zou W, Kryczek I	pp.3156~ pp.3165		
4 Carboxyl-terminal Tail-mediated Homodimerizations of Sphingomyelin Synthases Are Responsible for Efficient Export from the Endoplasmic Reticulum. (査読付)	共著	平成29年 1月	The Journal of biological chemistry vol.292 No.3	Hayashi Y, Nemoto-Sasaki Y, Matsumoto N, Tanikawa T, Oka S, Tanaka Y, Arai S, Wada I, Sugiura T, Yamashita A	pp.1122~ pp.1141		
5 Coenzyme-A-Independent Transacylation System; Possible Involvement of Phospholipase A2 in Transacylation. (査読付)	共著	平成29年 3月	Biology vol.6 No.2	Yamashita A, Hayashi Y, Matsumoto N, Nemoto-Sasaki Y, Koizumi T, Inagaki Y, Oka S, Tanikawa T, Sugiura T			
6 Identification of optineurin as an interleukin-1 receptor-associated kinase 1-binding protein and its role in regulation of MyD88-dependent signaling. (査読付)	共著	平成29年10月	The Journal of biological chemistry vol.292 No.42	Tanishima M, Takashima S, Honda A, Yasuda D, Tanikawa T, Ishii S, MaruYama T	pp.17250~ pp.17257		
7 Aerobic Glycolysis Controls Myeloid-Derived Suppressor Cells and Tumor Immunity via a Specific CEBPB Isoform in Triple-Negative Breast Cancer. (査読付)	共著	平成30年 7月	Cell metabolism vol.28 No.1	Li W, Tanikawa T, Kryczek I, Xia H, Li G, Wu K, Wei S, Zhao L, Vatan L, Wen B, Shu P, Sun D, Kleer C, Wicha M, Sabel M, Tao K, Wang G, Zou W	pp.87~ pp.103		
8 Complex formation of sphingomyelin synthase 1 with glucosylceramide synthase increases sphingomyelin and decreases glucosylceramide levels. (査読付)	共著	平成30年11月	J. Biol. Chem. vol.293 No.45		pp.17505~ pp.17522		
その他							
III 学会等および社会における主な活動							

- [注] 1 学部、大学院研究科（及びその他の組織）の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
 - ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
 - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 助教		氏名 中山 光治		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1)薬学実習教育推進室 実習コーディネーターとして				平成19年 4月～平成31年 3月		<p>実習一元化を推進する過程において学生が実習を通していろいろなことを体験し学ぶことの楽しさを実感できるようソフト・ハード両面からサポートしている。具体的には実習室内の改装や実験台の修繕修復を通して実習環境の改善に努めている。</p> <p>また使用備品や機器類の管理や実習時の安全確保に関しては実習テーマ変更に伴う利用頻度を考慮しながら要不要を問い合わせ、執行部と協議し随時不足分の補充や年次更新による大幅な新機種買い換え、定期的なメンテナンスそして廃棄を行っている。</p>	
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書							
論文							
1 Physicochemical and Crystallographic Characterization of Mefenamic Acid Complexes with Alkanolamines		共著	平成16年 1月	Journal of Pharmaceutical Sciences		Sachihiko Numajiri, Daisuke Kobayashi, Hideo ueda, Koji Nakayama, Hiroshi Miyamae, Yasunori Morimoto	pp.144～pp.154
2 Cytotoxic Activity toward KB Cells of 2-Substituted Naphtho[2,3-b]furan4,9-diones and Their Related Compounds		共著	平成18年 1月	Biosci Biotechbol. Biochem.		Masayuki Ogawa, Jyunichi Koyanagi, Akiko Sugaya, Tadashi Tuda, Hiromi Ohguchi, Kouji Nakayama, Katsumi Yamamoto, y and Akira Tanaka	pp.1009～pp.1012
3 Synthesis of Phenyl Furyl Sulfides and Phenyl Furyl Ethers by Nucleophilic Substitution of Nitrofurans		共著	平成19年 1月	Journal of Heterocyclic Chemistry		Masayuki Ogawa, Katsuya Sakuma, Hiroshi Okamoto, Jyunishi Koyanagi, Koji Nakayama, Akira Tanaka and Latsumi Yamamoto	pp.1145～pp.1148
その他							
III 学会等および社会における主な活動							

- [注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
- 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
- 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
- ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。
 - ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
 - ③ 共著 (論文) の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
 - ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。

(表18)

所属 薬学部薬学科		職名 助教		氏名 武藤 香絵		大学院における研究指導担当資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
1) 学習支援				平成30年 4月～現在に至る	学習支援を希望する若しくは必要である担任学生に対し、定期的な個別面談および学習方法等に関する支援を行っている。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
論文							
1 5年間の蓄積より得られた実習生の自己評価を高くするために改善の必要な実習項目	共著	平成28年 3月	医薬ジャーナル社 医薬ジャーナル 第52巻 第3号	大嶋 繁、武藤 香絵	891頁～901頁		
2 城西大学に在籍する学生、教員、職員を対象とした「かかりつけ薬剤師・薬局」に対する意識調査：城西大学薬局の役割 (査読付)	共著	平成30年 3月	城西大学情報科学研究センター 城西情報科学研究 第25巻 第1号	井上直子、鎌野祐輔、秋元勇人、大原厚祐、根岸彰生、沖田光良、大島新司、武藤香絵、沼尻幸彦、大嶋繁、小林大介	1頁～12頁		
3 Discrepancies between patients' and pharmacists' perceptions of the role of community pharmacists as advisors on the use of pharmaceuticals in Japan: A comparison prior to and following revision of the Pharmacists' Act. (査読付)	共著	平成31年 3月	SAGE Open Medicine vol.7	Oshima S, Yamagishi M, Okita M, Akimoto H, Negishi A, Horii N, Mutoh M, Sannomaru Y, Numajiri S, Inoue N, Ohshima S, Wada M, Kobayashi D			
その他							
1 埼玉県薬剤師会のアドバンストワークショップへの取り組みについて		平成28年 3月	日本薬学会第136年会 横浜	中島孝則、田島敬一、日比徹、細谷治、大澤京子、菅野敦之、久津間信明、小佐野博史、藤井和江、藤田照子、武藤香絵、山崎あすか、畑中典子、鯉淵肇			
2 城西大学薬局における在宅業務の業務量と収益の現状		平成30年 7月	埼玉医療薬学懇話会第38回 学術研究講演会 埼玉	大橋悠、堀井徳光、武藤香絵、井上直子、大嶋繁			
3 薬剤師が在宅業務で行う高齢者総合的機能評価 (CGA) ツール作成のための予備的文献調査		平成30年10月	日本社会薬学会第37年会 千葉	大西祐輔、荻原康平、堀井徳光、武藤香絵、井上直子、大嶋繁			
4 終末期の在宅医療の患者を対象とした STOPP Frail基準の適用		平成30年11月	第29回日本在宅医療学会学術集会 横浜	大嶋繁、渡辺有貴、堀井徳光、武藤香絵、井上直子			
5 インターネット調査から明らかとなった保険薬局利用患者のQOL分布の特徴		平成30年11月	第12回日本薬局学会学術総会 名古屋	大原駿汰、堀井徳光、武藤香絵、井上直子、脇山春菜、秋元勇人、沖田光良、根岸彰生、大島新司、大嶋繁、小林大介			
III 学会等および社会における主な活動							
平成13年～現在に至る		日本薬学会 会員					
平成16年～現在に至る		日本TDM学会 会員					
平成16年～現在に至る		日本臨床薬理学会 会員					
平成27年 6月～現在に至る		一般社団法人埼玉県薬剤師会 薬学生実務実習委員会 委員					

[注] 1 学部、大学院研究科 (及びその他の組織) の専任教員について、所属組織ごとに別個に作成してください。
 2 各教員ごとに最近5年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 3 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入してください。
 4 「研究活動」については、下記の点に留意してください。
 ① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入してください。

- ② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付してください。
- ③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載してください。
- ④ 最近5年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておいてください。